

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 水曜日・4校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化(オランダの文化) Humanity and Culture (Lectures on Dutch Culture and Society)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室 文教地区キャンパス(全学教育講義棟)	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:代表[嶋津 拓]担当[ヤーブ フレイヴ] Eメールアドレス:h-sakai@nagasaki-u.ac.jp (留学生課 酒井)/研究室: 留学生センター/TEL:095-819-2044(研究室) (留学生課 酒井:095-819-2243) /オフィスアワー:月曜日14:00~17:30			
担当教員(オムニバス科目等)	ヤーブ フレイヴ		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字) 授業のねらい: オランダの歴史・文化について基本的な知識を修得させる共に、日本(特に長崎)との関係に関するオランダから見た歴史評価に触れ、両国の交流の歴史を理解させる。また、これらの講義を通して、日蘭交流の架け橋となる国際人としての素養を身に付けさせる。  授業方法:ネイティブのオランダ人による英語による講義である。  授業到達目標:オランダの文化や日蘭交流史に関し、英語で説明が出来る。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字) 授業内容(概要) オランダの歴史・文化について以下に挙げる基本的な知識を修得し、オランダから見た日蘭交流に関する歴史的評価について学び、両国の交流の歴史を理解する。なお、授業は全て英語で行われる。  第1回 オランダの地理—どのようにして海拔より低い土地で生活できるのか? 第2回 オランダの歴史—建国 第3回 オランダの歴史—19・20世紀 第4回 オランダ帝国—植民の歴史 第5回 日蘭の関係 第6回 オランダの宗教 第7回 オランダの教育 第8回 オランダの芸術史—黄金時代 第9回 オランダの芸術史—19・20世紀 第10回 現代オランダ史 第11回 国際語としてのオランダ語—なぜオランダ語は国際語にならなかったのか? 第12回 オランダの文学—Introduction 第13回 オランダの文学—作者たち 第14回 オランダの文学—日本におけるオランダ文学 第15回 オランダ人の文化的アイデンティティ			
キーワード			
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況及び英語による小レポート(数回)、そして最終レポートまたはプレゼンテーション(どちらかを選択)により最終評価を行う。 (最終レポートまたはプレゼンテーションについては、担当講師と英語で話をしながら内容を決定する必要がある。)		
受講要件(履修条件)	英語による講義を理解できる中級程度の英語力が必須		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			